■キャラクター　ファイル　No.3

エリス　:40代女性/宿泊客

本名:エリザベス＝タイタニア

■背景

私は表向きには不動産の経営者だが、マフィア【ノース・カポファミリー】の構成員という顔も持っている。

不正な土地の売買や転がし等…一時期は荒稼ぎしていたが、数年前ファミリーの所持している物件に手を出してしまった。

そのツケで、多額の借金とファミリーへの借りを作ってしまった。

大金を得るために、"汚い仕事"を請け負う役割を続けている。

今回もそれが回ってきた。"断る"という選択肢はない。

ファミリーからの指令状の内容は、次のようなものだった。

昔、キッシュというファミリーの幹部が居た。彼はマフィアとしては多大な力と信頼を得て、多額の財産を得ていたが、ある日おなじチームのひとりであるジャックと共にファミリーを抜けた。
キッシュとジャックはその後、とあるホテルを設立してひっそりと経営している。

だがキッシュは自分の財産を残したままこの世を去った。
今は、ジャックがそれを管理しているはずだ。ファミリーはキッシュに財産を分け与えたが、彼が死んだとなれば話は別だ。ジャックと話をつけて、その財産を回収してくるのだ。

話が決裂したのならジャックを殺して、お前が財産を見つけてこい。

ジャックという男には面識があった。

昔 不動産という顔を利用して、ホテルの権利書を改ざんし、裁判所への申し立てに協力した事があったのだ。

これをネタに強請（ユス）る事ができるかもしれない。

私は拳銃と昔の改ざん書のコピーを持って、十数年ぶりにあのホテルへと向かったのだ。

あなたのパワーポイント
8

※パワーポイントは、目的の証拠を手に入れるために必要になる可能性があります。

※このパワーポイントは各自で管理してください。

■事件のファイル

■19:40
ホテルの支配人へ電話を掛ける。

「ジャック…わたしよ。 もうすぐそっちへ行くわ。用件は分かってるわよね。

ファミリーから既に彼への警告はしてあるはずだ。

「エリス、悪いがそちらの期待に応えられそうもない。なぜならキッシュの残した財産は
私の物ではないからだ。」
「あなたのものでないというなら、それはフリーという事ね。ならばなおのこと、ファミリーに返すべき
だわ。」

一方的に電話を切ると、私はまた車を走らせた。

私がホテルに到着したのは、20時20分頃であった。
このホテルは19時には正面玄関が閉められてしまうらしい。私はインターホンを呼び出した。
インターホンの声に指示されるまま、私は従業員用の出入り口に案内された。

■20:20
従業員用の出入り口で待っていたのは、キャシーというホテルマンだった。
彼女は簡易的な受付をし、部屋までの案内を軽く済ませると、そそくさと行ってしまった。
どうやらかなり忙しい時間に到着してしまったらしい。

■20:40
やっと自室(3号室)に入り、荷物を置く。軽く支度をし、食事もさっさと済ませてしまおう。

■20:50
大広間にやってきた。私の他に客は2人しか居ないようであった。
2人はだいぶ飲んでいるようである。だが、今の私はお酒を飲む余裕などない。

■21:00
料理人が私の為にディナーを配膳してくれた。

■21:30
そそくさと食事を済ませた私は、大広間をあとにした。
だがそのまま自室には戻らずに、支配人室に行く事にした。部屋をノックしてみるが
返事は無い。ジャックはフロアのどこかで仕事をしているのだろうか?

私はあきらめて自室に戻ることにした。

■22:20
となりの(2号室の)ドアをかなり大きな音をたてて、誰か入っていく音がした。
酔っぱらっているのだろうか? 部屋の中でも大きな物音をたてていたが、やがて静かになった。

■22:45
隣のドアをノックする音が聞こえた。やがてドアが開かれる音、そして男性の軽い悲鳴。

気になった私が廊下に出ると、隣の部屋のドアに男性が立っていた。確か、大広間にいた…
という事は宿泊客だろう。

「一体どうなされたのですか?」

なんとなく彼の表情が気になった。

「いや、同僚と仕事の話をしていて…ちょっと驚いただけなんだ。気にしないでくれ。」
そういうと、彼はそそくさと自分の部屋に帰って行った。どうやら彼は1号室の客らしい。

半開きの2号室のドアの奥から、女性の手が見えたと思ったら、すぐに閉められ鍵をかける音がした。

■23:10
　ホテルの中が静まり返った頃合いを見計らって私は自室をでた。
1階に降り、再び支配人室…ジャックの部屋をノックする。
ハンドバックの中から拳銃を取り出す。もしも、彼が強請(ゆすり)に応じなかった場合、これを使う事になるかもしれない。

だが、いくらドアをノックしても開かれることは無かった。

彼は一体どこに行ってしまったのだろう。

軽くドアノブを触ると…鍵は掛かっていないようだった。

■23:20
　ゆっくりと、支配人室に入る。中は真っ暗だ。
照明のスイッチを手探りで探す。カチッカチッ…何か触ったが、部屋のスイッチではない…?

また手探りで…　やっと部屋に明かりが灯る。

中には誰も居なかった。

小さな金庫が置いてある。ためしにジャックの誕生日をセットしてみると簡単に開錠された。
中には札束がひとつ入っている。

…不用心なものね…
そう思いかけ、すぐにその考えを否定する。

…キッシュの残した財産はこんな小金ではない、これはちゃちなコソ泥の目をひくための"囮"に過ぎない。
今はこのお金に手を付けないでおこう。

　机の中に手帳がしまってある。軽く中をめくると、なにやら暗号のようなものが書かれている。
もしかしたら、これは何かの鍵になるかもしれない。

やはり本人に直接 強請(ゆすり)あげるしか手はなさそうだ。

　私は手帳のみを持って部屋を出ることにした。

■6:00　(11月2日)
　翌朝、誰かの悲鳴で目が覚めた。
自室を出ると、下階で人があつまっていく気配がする。

■エリスの情報
　①マフィアの知識
　ノース・カポファミリーは、この地方に強い勢力をもつ。
　強請/人身売買/麻薬売買/用心護衛/用心暗殺　等…あらゆる犯罪に精通している。
　　血の制約を信条とし、破ったものには凄惨な処罰が与えられるが、一定の財産を収める等により
　ファミリーを抜けられる場合もある。

　②ジャックの過去
　ジャックは彼の若いころ"ファミリー"に属していた。
彼はキッシュという幹部に気に入られていて、彼もまたキッシュを神のように崇拝していた。
このホテルはファミリーを抜けた後に二人で作ったものだ。
　キッシュの死後、彼はエリスに"このホテルの土地権利書"の偽造を依頼してきた事があり、
その際にホテルの経営権を手に入れることになるが、本来ならキッシュの私財で作られた
土地建物は彼の親族に渡るはずであった。

■あなたの目的

ジャックが死んでしまっても、あなたの目標は変わらない。

第1目標 勝ち点6	事件の真犯人を拘束しよう。

※最終投票で犯人を拘束する。

第2目標 勝ち点3	このホテルの【隠し財産】を手に入れよう。

※エンディング時に、アイテム【隠し財産】を持っている。

第3目標 勝ち点1	マフィアとのつながりを隠し通す。

※あなたがマフィアの関係者である事がバレていない。

■あなたの初期所持品　(自室に置いてある物)

① 拳銃　… 所持していると、【所持品を奪う】【最終投票/同票決戦時】判定にパワーポイント+2

② ファミリーからの指令状

【話が決裂したのなら、ジャックを殺してお前が財宝を探すのだ】

③ 契約の改ざん記録

日付は18年前。何かの契約書を改ざんした記録のコピー

④ 手帳…支配人室で見つけた手帳

裏表紙に、8C　■I　4D 8V と書かれてある。　※■は汚れていて良く見えない。

■あなたの固有アクション　(探索フェーズで使用可能)

●襲撃の心得

●効果…対象のアイテムを強奪する際、相手の持っている武器の効果をなくします。

※探索フェーズで「固有アクション使用」と宣言をする事で使用できます。
固有アクションの内容を周囲に言う必要はありません。

※この固有アクションを使用した場合、自動的に強奪行動をとる事ができます。
この際、対象がいかなる武器を持っていたとしても、その武器の判定は強奪行動に影響しません。

※使用するための条件となるアイテムも回数も制限はありません。

※このアクションは襲撃時のみに効果を発揮し、襲撃された場合には使用できません。

■プレイのワンポイントアドバイス

人と接している時間が少ない分、進行如何によっては疑われる可能性がある。
"お金に困っている事"のみアピールして、マフィアであることを隠しつつ自分の弱みを出していくと
疑われずに済むかもしれない。